

大鹿スケッチ

— 第37号 —
2013年 11月
〈 発信者 〉
前志満 くみ
〈 提供 〉
旅舎 右馬允

暖かかった秋も過ぎ、ホウレンソウや白菜の甘さに冬の訪れを感じています。今年は遅霜の影響で柿が不作。柿のれんもまばらです。ギンナンに至っては村内のものはほとんど全滅のよう。こういう年もあるのですね。

小洪川で「床固め工事」と称される工事が始まり一ヶ月余りが過ぎようとしています。静かな谷に不釣り合いな重機の音と、自慢の景観に目障りな車両が冬のゆったりとした時間を台無しにしています。

「ブレリニア工事!」が頭をよぎります。村で起こる公共事業のすべては結局、大きなものに繋がってしまうのであながち違ふとは言えないでしょう。何れわかることです。自然のものに安易な手を加えてもその機能性は薄らぐのは確実です。小洪川の整備された川底は手をいれる前より、ずっと土砂が堆積するスピードが上がりました。



～右馬允文庫の紹介～

右馬允の玄関に入ってすぐのベンチにおススメの本を置かせていただいています。冬はゆっくりとお炬燵で読書をするのはいかがでしょうか。気軽に手にお取りください。

那須圭子写真・文「平さんの天空の棚田」(みずのわ出版)原発施設建設に反対する祝島は知られていますが、親から受け継ぐ棚田を守る平さんはあまり知られていません。こういう生き方ができる場所はいないとしみじみ思います。

ジョン・タン・著「エリック」野山友達のOさんに「これ、クミちゃんに似ているから!」といわれて頂いた本です。著者の自然に対する優しいまなざしが感じられる本。



第一次 三伏会議開催

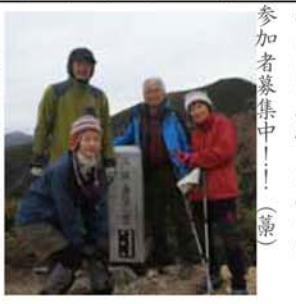
一月二日今年、赤石山脈の稜線暮らしで御縁ができたルプスを見ながら遊びます。掛川さんと「リニアが通ると改めて山の有難さというのころを上から見てみましょ。小さいころからインプットさう。」という話になり、彼の友らを含め四人で出掛けてきました。見ごろを迎えた豊口のはなはそうです。紅葉やカラマツ林を楽しみながら、リニアの問題点について意見交換をしました。

掛川さんご夫婦は静岡在住でそちらの様子を伺うのは初やかにかにキノコたっぶり鍋を御めです。鈴岡側の南アルプスの一部は私有地なのでカン、山食は一人が多かったのなり具体的などころまで公表できなりました。例えは様々な形で意見交換が楽しませていた印象です。おおくことが計画されていたマムで建設的なのも個人り、南アルプスへの入り口に的には第二次も開催予定!

工事関係者の宿舎ができたといいた具合です。県民の意見はどうなのでしょう。Kさんの話では、静岡県では同じ南アルプスの麓に暮らしていても危機感薄いようです。市街地から四時間くらいかけないと南アルプスの麓まで行けなかつたり、工事現場になる一帯が私有地であつたりと、「みんなの、故郷の、親しみのある」といった感情が全体的に希薄であるためではないかと掛川さんは推察します。

長野県内の学校校歌には必ず身近な山の名前が登場します。予定とのこと注目です!

予定とのこと注目です!



大鹿 HeatBeat

～大鹿の人々～ 第33回
紙谷 正 さん (87)

季節節ごとの風景と共に大鹿人の生活を市合同庁舎で行われました。事前申し込みをした飯田下伊那熱く響く「鼓住で、危機感の表れが顕著に出た公動」をお届けいたします。



年の終わりを感ずる瞬間には個人差があると思いがすが、あなたは何をみたり、耳にしたり、もしくは行うかと「年の終わり」を感じますか?

紙谷さんは十一月の終わりに田んぼでトラクターに乗り乗っている時だといまです。「今年もお陰さまで収穫できました。ありがとうございます。」という気持ちを守り、未来の子供たちに残して欲しいと「一年の終わり」を感じます。大鹿村を生き抜き、様々な開発をみてきたその人は赤石岳を臨む自宅の縁側で、しかし力強くさういいます。環境の保全、それはかけがえのないこと、未来を守ることです。大鹿村で、今を生きている私たちがやっています。今を生きている私たちがやっています。今を生きている私たちがやっています。